



天気予報にでてくる「ひまわり」って、なあに

「ひまわり」は気象衛星の名前

「ひまわり」は、日本が1977年7月にはじめて打ち上げた気象衛星です。

世界最初の気象衛星は、1960年4月にアメリカが打ち上げたタイロス1号です。

「ひまわり」は、宇宙から地球表面の写真を撮り、雲のようすなどから天気に関するいろいろなデータを調査するために、打ち上げられました。

「ひまわり」は、地上35800キロメートルの高さに打ち上げられています。これはこの高さにある衛星は地球が回る速さと同じ速さで回るので、地上からはいつも同じ位置に止まっているように見えるのです。こうした衛星を、静止衛星といいます。

天気予報の作成や台風の見つけに大活躍

「ひまわり」は、雲の分布や雲のてっぺんの温度、海面や地表面の温度、大気中の水蒸気の量、風、大気中の温度、雪雲の様子などを調べ、天気予報の作成に役立っています。

ことに、台風など最も気になる情報も、その発生、発達の様子、大きさや進路などを確実に知ることができるようになりました。（監修 村山貢司）

●静止気象衛星「ひまわり」

